

ヴィンケル第2図法について (メモ)

2018年3月28日

『地図学用語辞典』などには次のように書いてあります。

「正距割円筒図法（標準緯 緯度 $50^{\circ} 28'$ ）とモルワイデ図法とのそれぞれの展開用 x y 座標の算術平均を座標として作図する合成図法。世界全図に用いる」。

ESRI のサイトも同様です。

<http://desktop.arcgis.com/ja/arcmap/10.3/guide-books/map-projections/winkel-ii.htm>

●実は、正距割円筒図法と Apian II（アピアン第2図法）との合成でした。モルワイデ図法ではありません。

<http://www.progonos.com/furuti/MapProj/Normal/ProjPM/projPM.html> の下の方に、

Second Apian map extended to whole world, central meridian 0° の地図がでできます。

その画像をクリックすると別枠で表示され、その下に

Apian's second globular projection in extended form including the whole world (not to be confused with Mollweide's projection); central meridian 0° E

と書いてあります。モルワイデと混同しないようにという注意書きですね。

『Flattening the Earth』にも、p.196 に、モルワイデを正積でない等間隔 (equidistant) の緯線を持つように変更されたものとの平均をとったという記述があります。

なお、Apian II（アピアン第2図法）はこのような図法です。

こちら <https://map-projections.net/index.php> の

次のページにあります。

<https://map-projections.net/single-view/apian-ii>

● 地図投影法ソフト「ジオカート」<https://www.mapmathematics.com/Index.php>

の作者の Daniel Strebe さんからは、問い合わせに対して、以下のメールをいただきました（原文のまま）。

「不思議な間違いですね。明らかにモルワイデではなく、Apian II です。誤解の元はおそらくヴィンケル氏自身にあったかもしれません。原文を見たことがないが、Snyder 氏の説明を読めば、ヴィンケル氏の原文内の説明では「変更されたモルワイデ」というような書き方があると、なんとなく読み取れます。ヴィンケル氏は多分、Apian II の名前や歴史を知らなかったからでしょう。」

各種情報を提供してくださった大山洋一様に御礼申し上げます。